

## ▼エムラクリーム [外]

【重要度】 【一般製剤名】リドカイン/プロピトカイン lidocaine/propitocaine 【分類】外用局所麻酔剤

【単位】▼5g/本 [2.5%]

【常用量】60分間「最大120分間」ODTにより塗布後、本剤を除去し、直ちにレーザー照射又は注射針・静脈留置針穿刺を行う

■10cm<sup>2</sup>あたり1gを目安に使用（穿刺部位に0.5g程度貼付）

【用法】ODTにより塗布■注射針・静脈留置針穿刺時の疼痛緩和に使用する場合、本剤を皮膚から除去した後、穿刺部位を消毒する

【透析患者への投与方法】常用量（1）

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量（1）

【特徴】局所麻酔薬として用いられるリドカインとプロピトカインの共融混合物のクリーム剤。それぞれを等モル混合すると室温で液状の共融混合物となり、水分含量が高く、油滴中に高濃度の局所麻酔薬を含む製剤が調製できる。ODTにより適用する。

【主な副作用・毒性】ショック、アナフィラキシー、意識障害、メトヘモグロビン血症、めまい、悪心、皮膚の異常など

【安全性に関する情報】局所麻酔剤の血中濃度の上昇に伴い、神経系興奮症状が発現し、重症例では中枢神経抑制及び循環抑制を呈する。高用量のプロピトカインはメトヘモグロビン血症を引き起こすことがある〔重症の場合はメチレンブルーを投与〕（1）プロピトカインの代謝物であるo-トルイジンがメトヘモグロビンを産生することによる（1）

【tmax】4hr（1）

【代謝】■リドカイン：数種の代謝物に変換され主代謝物は4-hydroxy-2,6-xylylidine（1）

■プロピトカイン：肝臓でN-propylalanineとo-toluidineに加水分解され、水酸化され抱合を受ける（1）

【排泄】リドカインは未変化体として2.8%、主代謝物として72%が尿中に回収（1）プロピトカインは未変化体としては尿中に排泄されず、主に代謝物の抱合体として尿中に回収（1）

【t1/2】4~5hr（1）

【蛋白結合率】リドカイン40.7~58.1%、プロピトカイン約30%（1）

【MW】リドカイン234.34、プロピトカイン220.31

【主な臨床報告】アルコール性の消毒剤よりも抗菌作用があった（Batai I, et al: Anesth Analg 108: 666-8, 2009）

【備考】損傷部位、粘膜、眼には使用しない（1）第3相試験の条件では、塗布量や密封時間と鎮痛効果は相関しない（1）

【更新日】20200516

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。